

(証券コード：3447)

2019年3月期 第2四半期 補足資料

(2018年11月27日)

 **信和株式会社**

COPYRIGHT © SHINWA CO., LTD. ALL RIGHTS RESERVED.



会社概要





会社概要

| | |
|------|-------------------------------|
| 社名 | 信和株式会社 |
| 本社 | 〒503-0311 岐阜県海津市平田町仏師川30-7 |
| 代表者 | 代表取締役社長 山田 博 |
| 創業 | 1977年 9月 |
| 設立 | 1979年 8月 |
| 資本金 | 1億円 |
| 従業員数 | 149名 (2018年3月31日現在) |

創業41年、
仮設資材・物流機器
製造メーカー



| | |
|----------|--|
| 1977年9月 | 岐阜県羽島市に信和商店創業 |
| 1978年4月 | 岐阜県羽島市に工場を建設 |
| 1979年8月 | 法人に改組し信和株式会社設立 |
| 1988年1月 | くさび緊結式足場「キャッチャー」の販売開始 |
| 1990年10月 | 岐阜県海津市に工場建設 |
| 2003年12月 | 自動車産業向けの物流機器の販売を開始 |
| 2016年5月 | 次世代足場を開発、製造・販売を開始 |
| 2017年6月 | フィリピン国マニラにフィリピン事務所を開設 |
| 2017年10月 | ベトナム国の提携工場にてくさび緊結式足場の製造開始 |
| 2018年3月 | 東京証券取引所市場第2部に上場 |
| 2018年6月 | 名古屋証券取引所市場第2部に上場 |
| 2018年10月 | 熊本機材センター（熊本県熊本市）を開設 |
| 2018年11月 | 横浜機材センター（神奈川県横浜市） 関西機材センター（大阪府池田市）を開設 |





拠点ネットワーク

- 営業拠点を日本国内に5拠点、海外に1拠点展開



信和株式会社 本社



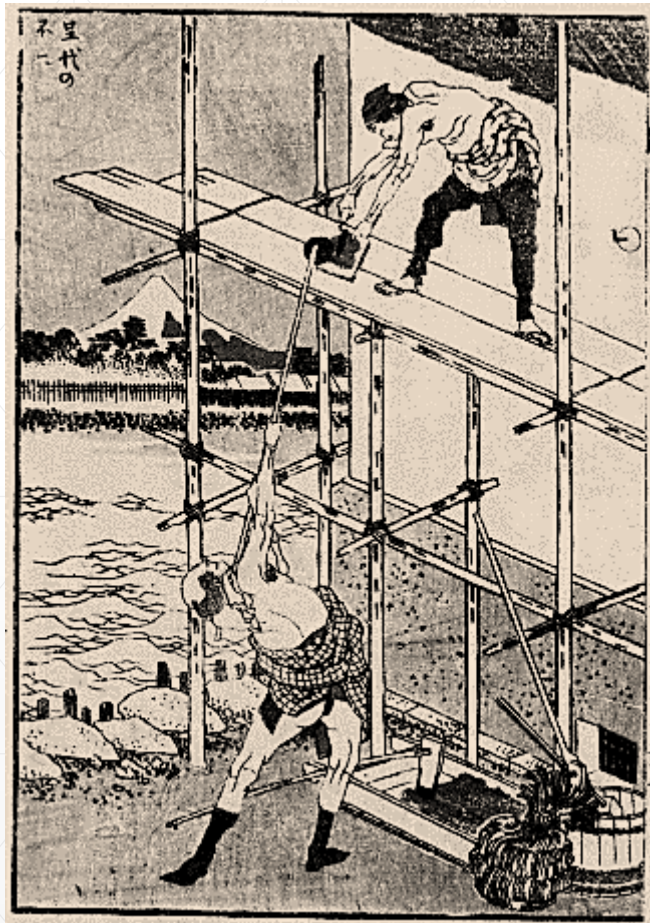
■ 拠点一覧 ■

| | |
|-------------------|-----------|
| 本社 | 岐阜県海津市 |
| 《営業所》 | |
| 東京支店 | 東京都千代田区 |
| 大阪支店 | 大阪府吹田市 |
| 幸手事務所 | 埼玉県幸手市 |
| フィリピン駐在員事務所 | フィリピン国マニラ |
| 《機材センター》 | |
| 土倉機材センター | 岐阜県海津市 |
| 杉戸機材センター | 埼玉県北葛飾郡 |
| 横浜機材センター 新 | 神奈川県横浜市 |
| 関西機材センター 新 | 大阪府池田市 |
| 《工場》 | |
| 土倉工場 | 岐阜県海津市 |
| 提携工場 | ベトナム他 |
| 《子会社》 | |
| 信和サービス本社 | 福岡県糟屋郡 |
| 長崎営業所 | 長崎県諫早市 |
| 熊本機材センター 新 | 熊本県熊本市 |



足場とは？

建築物あるところに「足場」あり。



《江戸時代》

葛飾北斎 富嶽百景

「足代の不二」

(資料：国立国会図書館デジタルコレクションより)



足場とは？

建設現場の工事に関わる全ての方々の
安全や命を支える必需品



ビルの建設や橋梁工事などの
土木、大型施設など
**街を作るのにも、
建物を建てる時にも
なくてはならないもの。**





私たちの理念～Our Mission

私たちは
製品・サービスを通じて
大切な「命」を守ります

私たちがご提供する製品やサービスは、これらを利用する方々の安全、ひいては命に直結しています。

私たちはそれをいつも心にとどめて活動し、すべての品質に対して決して妥協することはありません。



土倉工場（岐阜県海津市）のご紹介



1年間の製造量
10トントラック

約 **4,650** 台分
(2016年度)

敷地面積
40,642m²
(東京ドームとほぼ同じ広さ)

溶接
ロボット

137 台



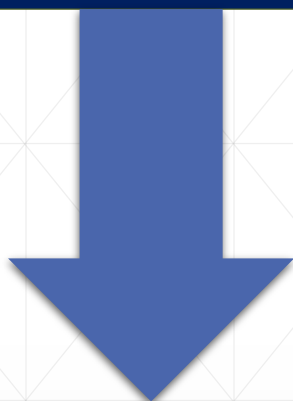
事業環境





事業環境①：建設投資の状況

高度成長期



現在

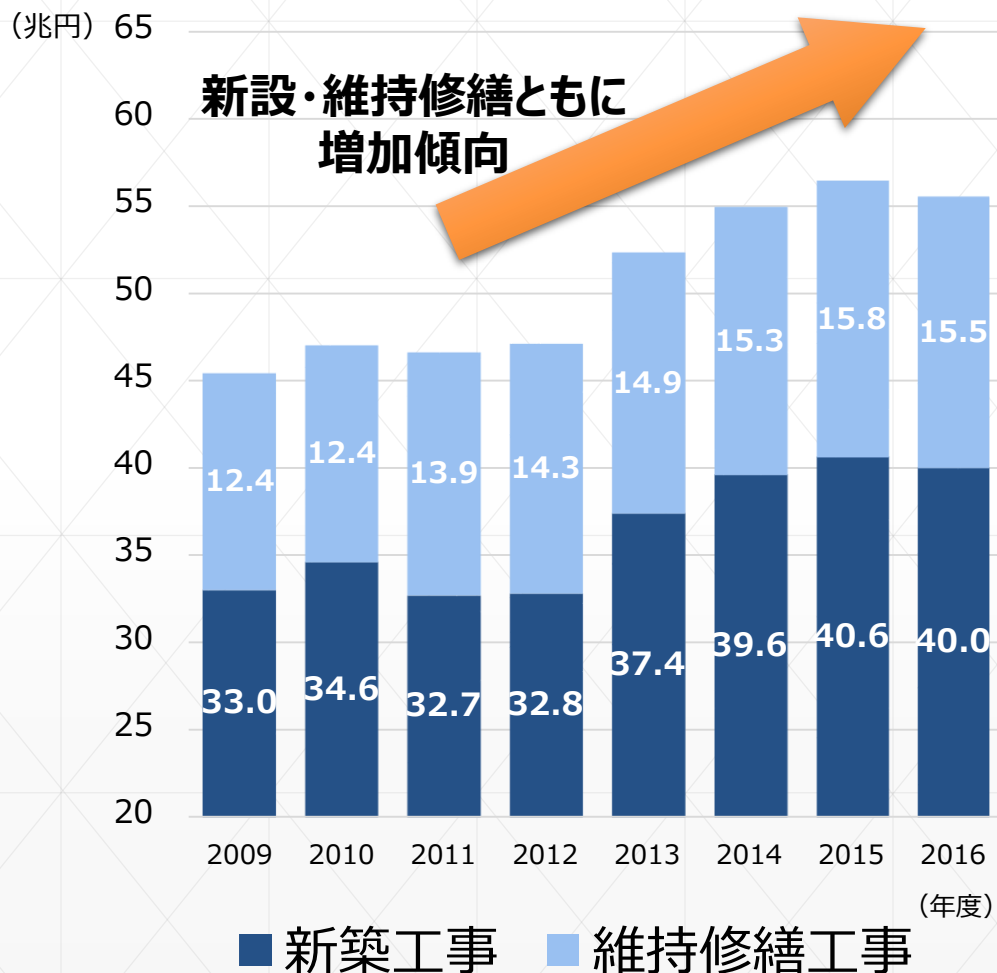
道路橋など、
社会的インフラが
集中的に整備された

老朽化対策が急務
インフラの維持・修繕



事業環境①：建設投資の状況

建設投資：新設工事と維持修繕工事の推移



2014年策定
国土交通省
インフラ長寿化計画

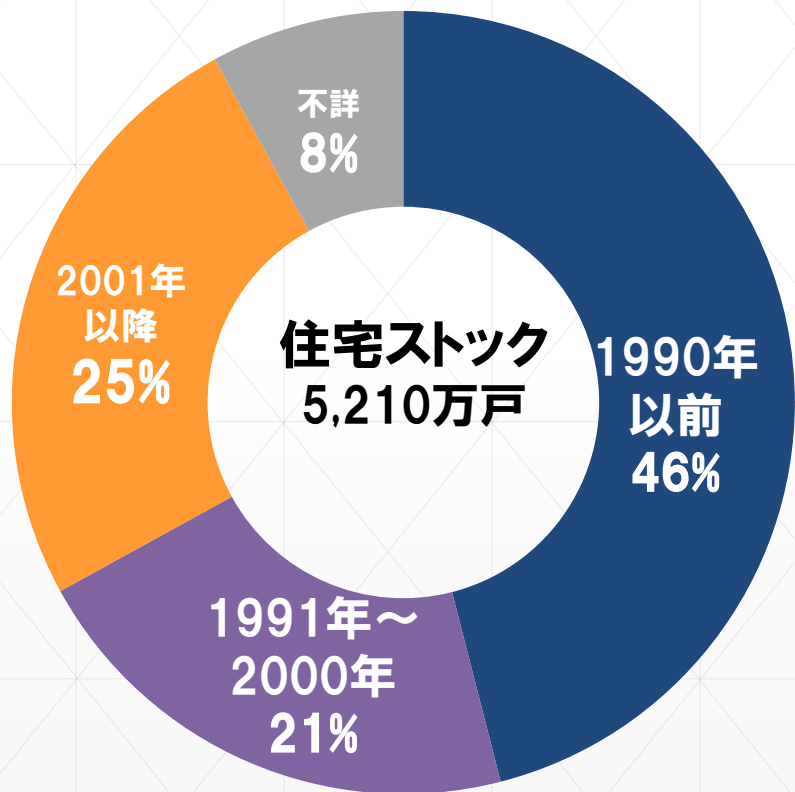
道路橋など
社会的なインフラの
維持修繕工事が
増加傾向

出典：国土交通省「建設工事施工統計」より



事業環境②：リフォーム需要が増加

建築時期別
居住世帯のある住宅数



まもなく**築30年**
以上を迎える住宅
46%
2,385万戸

リフォーム需要の
拡大が見込まれる



事業環境③：安全措置資材の需要増加

厚生労働省リーフレットより

No more！ 墜落・転落災害 @建設現場

平成29年秋以降、建設業における死亡災害が前年に対して10%以上増加！
また、死亡災害のうち約45%が墜落・転落災害です！

「建設業における墜落・転落災害防止対策強化キャンペーン」実施！

平成29年12月1日（金）～平成30年1月31日（水）

厚生労働省では、災害の多い年末年始に取り組んでいただいている「年末・年始の無災害運動期間」に合わせて、「建設業における墜落・転落災害防止対策強化キャンペーン」を展開します。期間中、建設現場における墜落・転落防止対策に重点的に取り組みますので、各建設現場においても、元請・下請の皆さまが一丸となって、墜落・転落災害防止対策を推進しましょう！

【建設業における労働災害の発生状況】

図1 死亡災害の事故の型別内訳（平成28年）

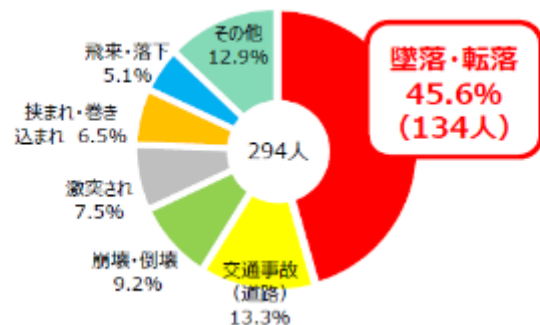
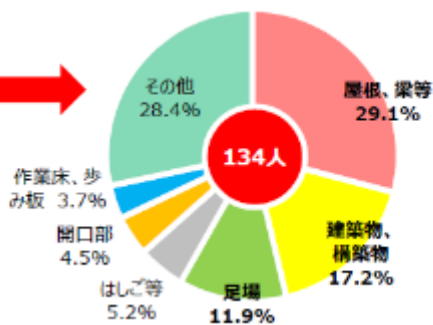
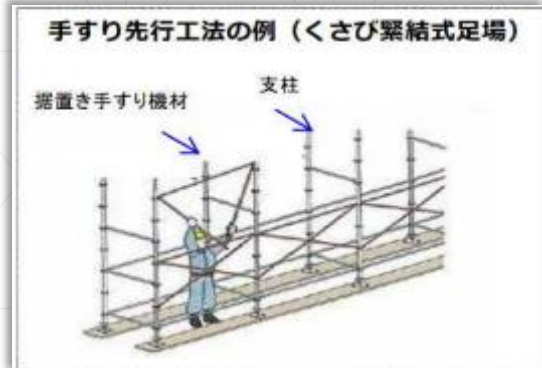


図2 墜落・転落災害の発生箇所（平成28年）



墜落・転落
45.6%
(134人)



転落防止の先行手すり、
物体落下防止の幅木、
幅が広い踏み板など
安全措置資材の
需要が増加



事業環境④：建設現場における問題

マイナス要因

- ・熟練した職人の不足
- ・労働単価の上昇
- ・労働時間の適正化
- ・必要な安全措置資材増加

ビジネスチャンス！

プラス要因

- ・維持修繕工事の増加
- ・リフォーム需要拡大

成長戦略





マーケットの違い



大型施設・高層

大型マンションやビル
大規模施設など

中層～低層

マンションや
戸建て住宅など

別々のマーケット



当社のポジショニング



マーケット

大型施設・高層

中層～低層

次世代足場を新発売！



次世代足場



今まで対応
できなかった
高層の施設も
対応可能に！



シンワキャッチャー

今までは、
低層～中層のマーケット
でシェア





仮設資材部門：次世代足場が牽引

次世代足場とは？

| | 次世代足場 | 枠組み足場 |
|---------|-------|-------|
| 工期 | 短 | 長 |
| 施工効率 | 高 | 低 |
| 騒音 | 少 | 少 |
| 保管・搬送効率 | 高 | 中 |



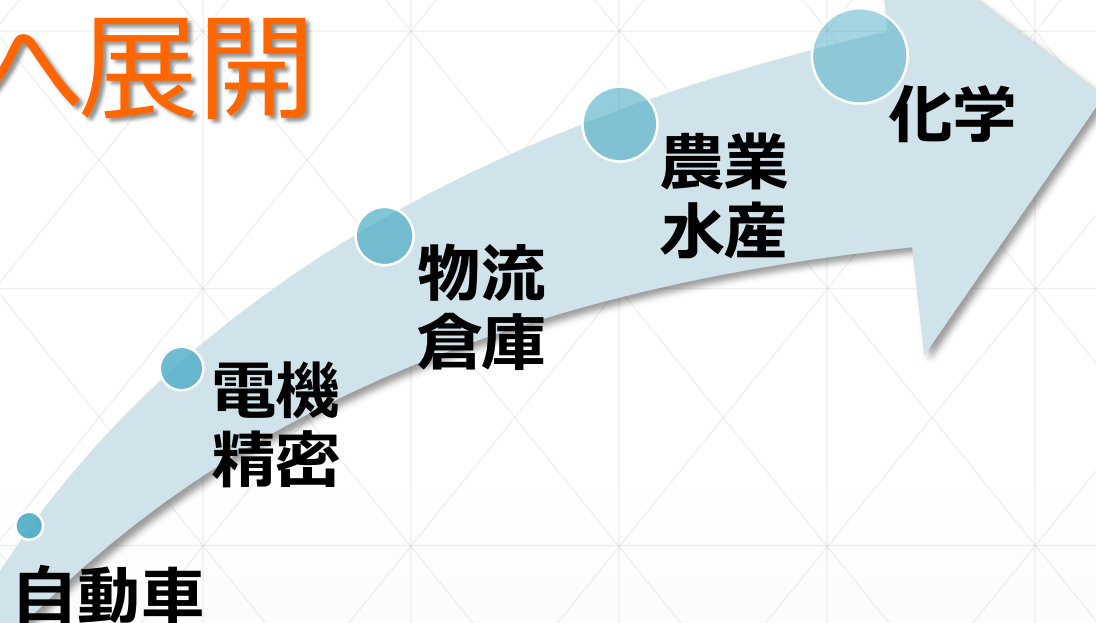
「SPS (Silent Power System)」



枠組み足場から次世代足場へ
切り替え需要に応える

仮設リース会社や
大手施工会社社を中心に
販売対象を全国に拡大

幅広い分野へ展開

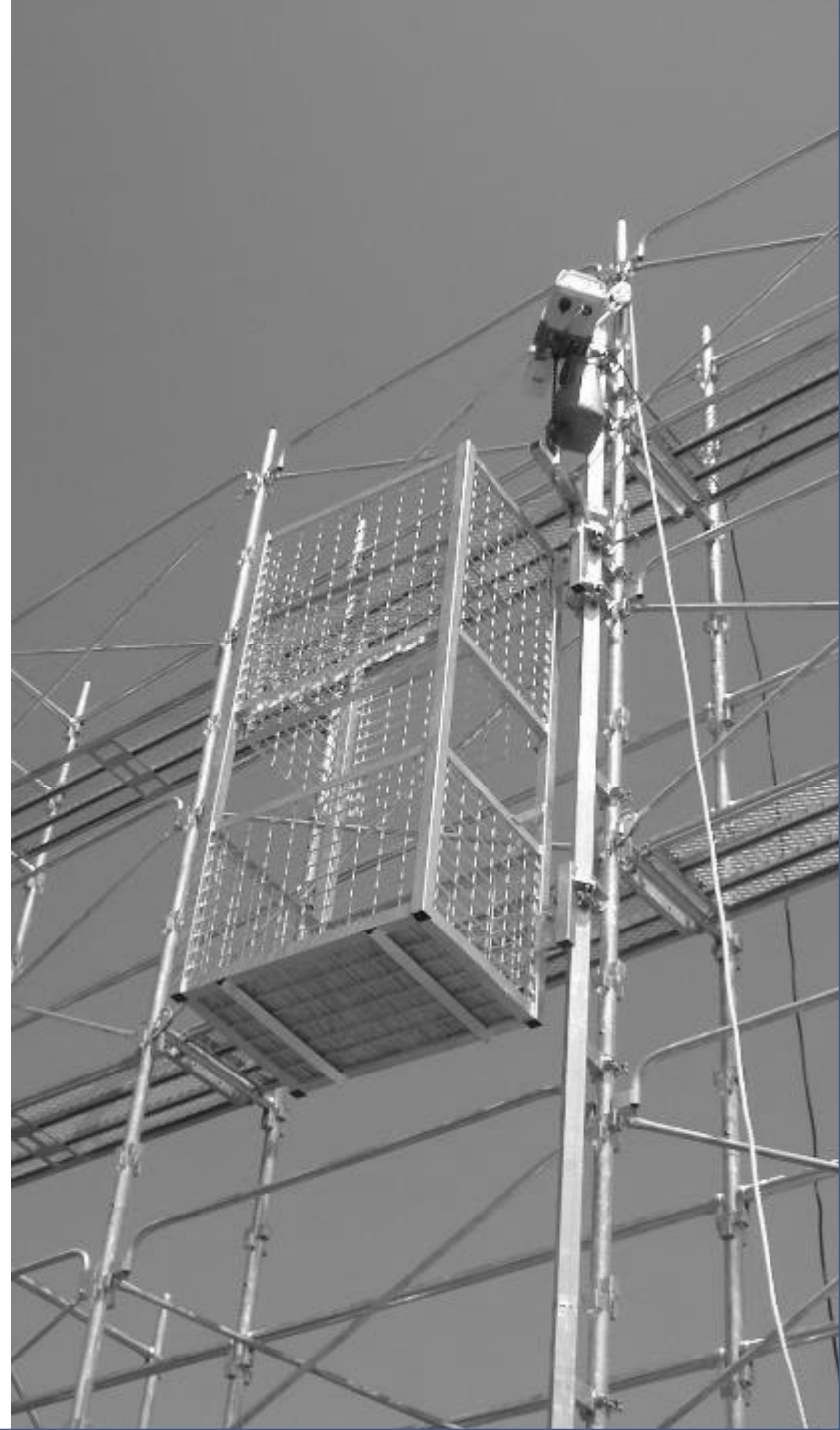


当社の
コア技術

液体搬送用バルクコンテナケースを増産
大型物流倉庫用ラックの受注生産を強化
上場効果による新規案件の獲得

第二の柱へ！

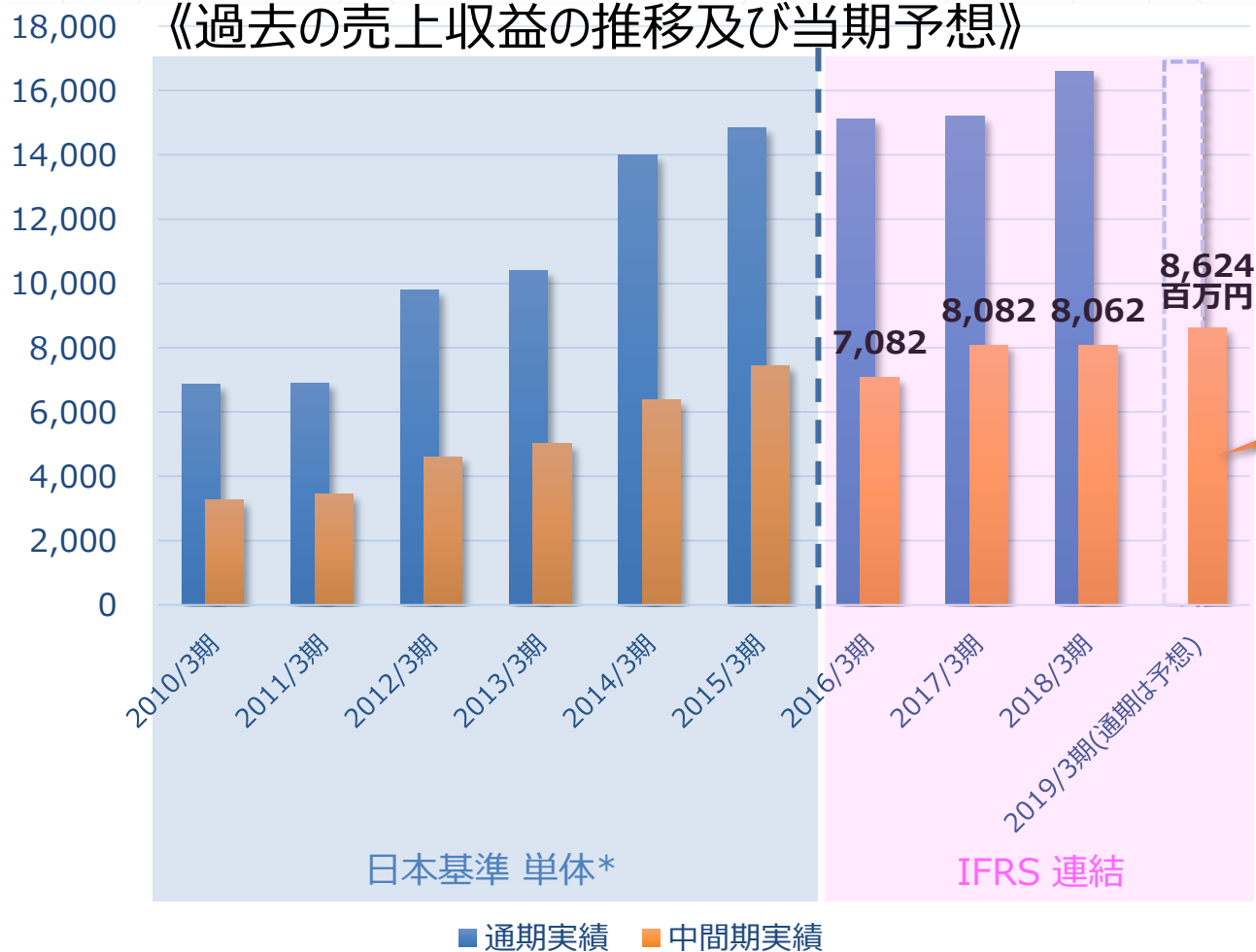
2019年3月期 第2四半期 決算ハイライト





決算ハイライト：過去最高の売上収益を更新

《過去の売上収益の推移及び当期予想》



売上収益
8,624百万円
 前期比：107.0%

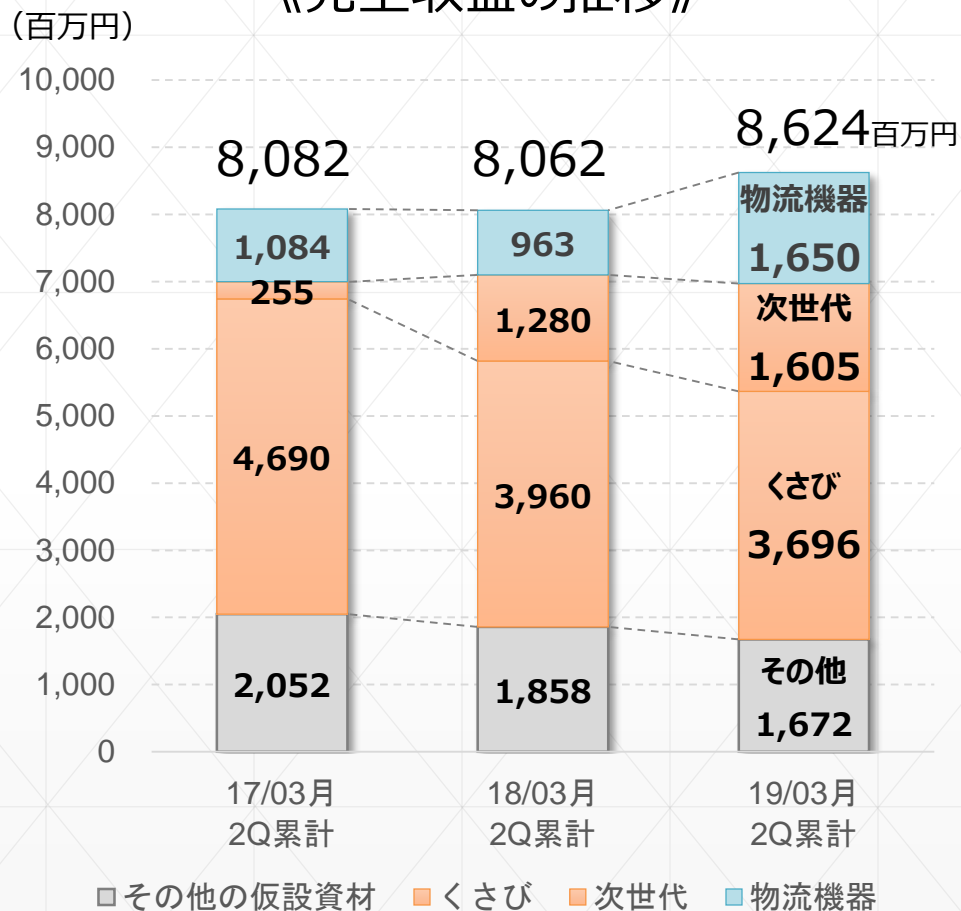
創業41年の
 歴史の中で
 第2四半期累計
 売上収益
最高額を更新

* 当社は2016年3月期から連結財務諸表を作成しております。
 * 2015年3月期以前につきましては、当社単体の数値を記載しております。

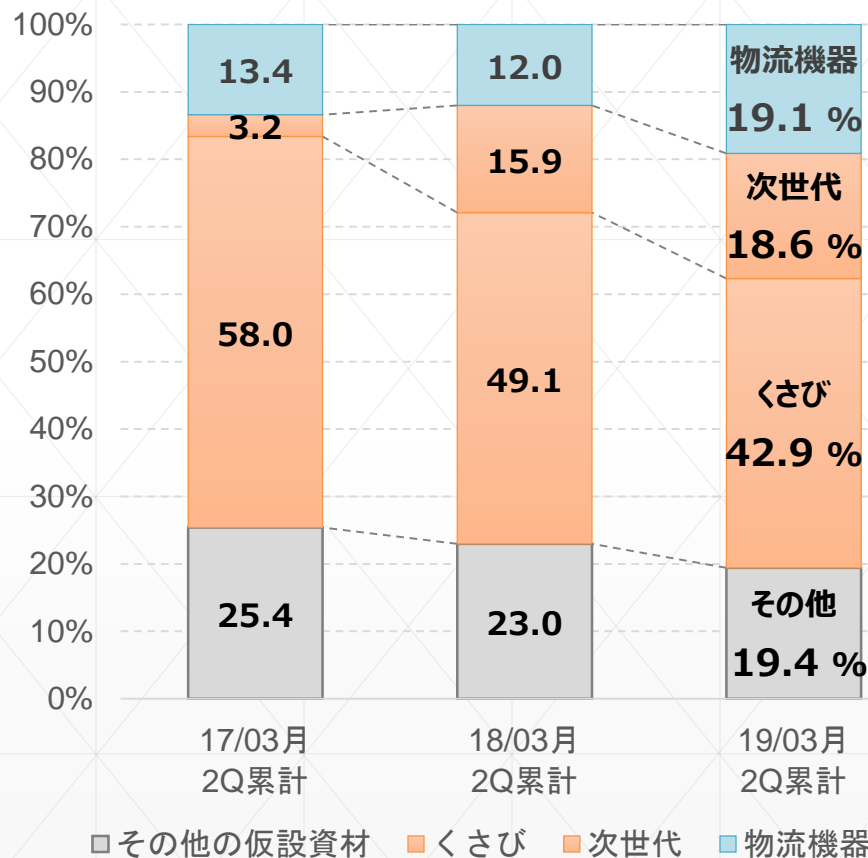


第2四半期 部門別売上収益の推移

《売上収益の推移》



《売上構成比の推移》



決算ハイライト：物流機器が1.7倍以上の増収

《物流機器部門の売上収益》



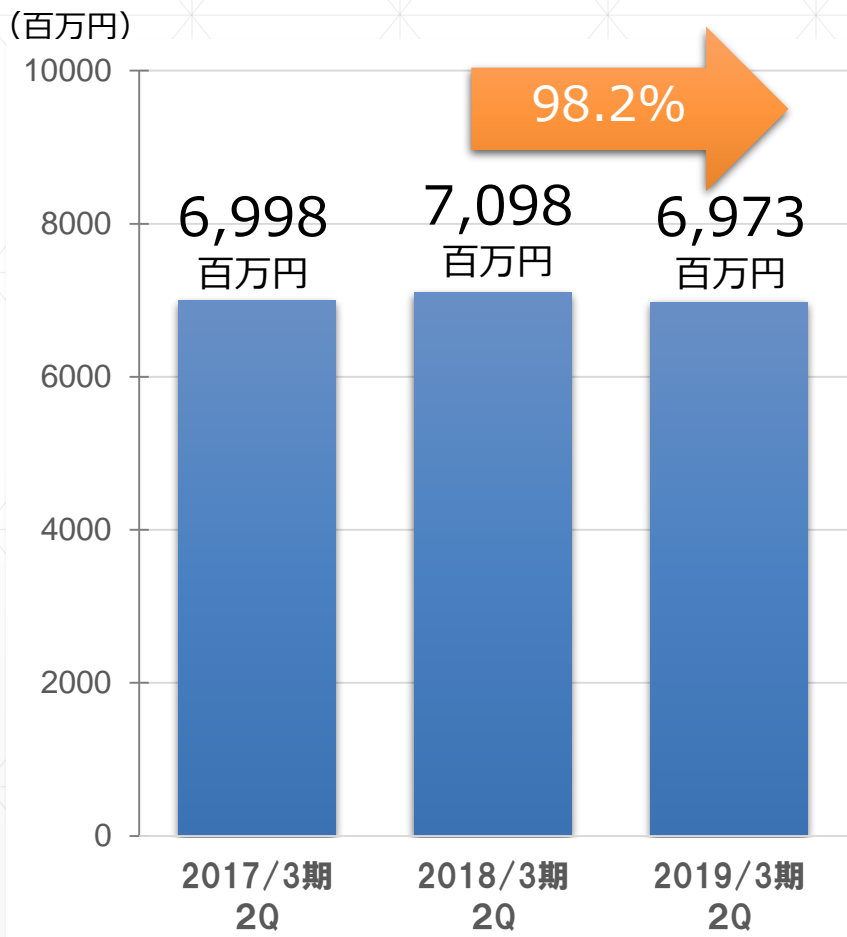
<プラス要因>





決算ハイライト：仮設資材は概ね横ばい

《仮設資材部門の売上収益》



＜プラス要因＞

**次世代足場が
売上収益を牽引
前年同期間比 125%**

＜マイナス要因＞

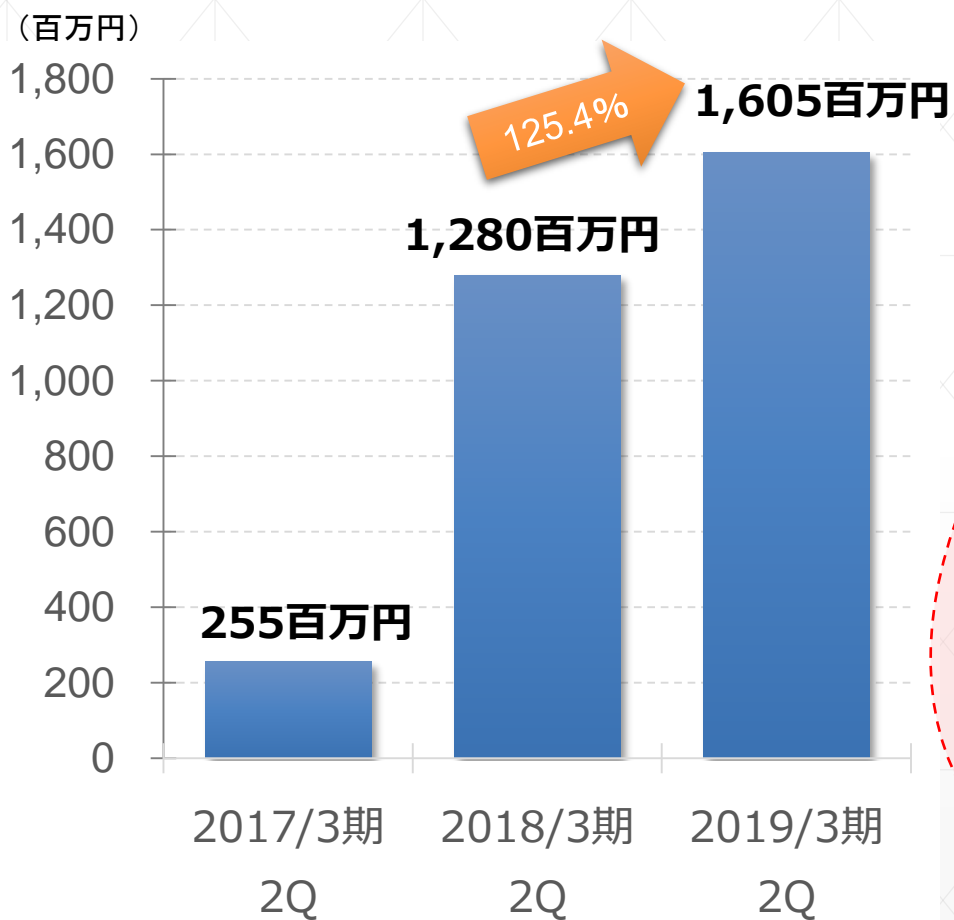
**深刻さを増す人手不足
自然災害で工事進捗悪化
くさび緊結式足場の
購買は低調**

※ 9月後半より急速に受注が拡大している



決算ハイライト：次世代足場は**125.4%**

《次世代足場の売上収益》



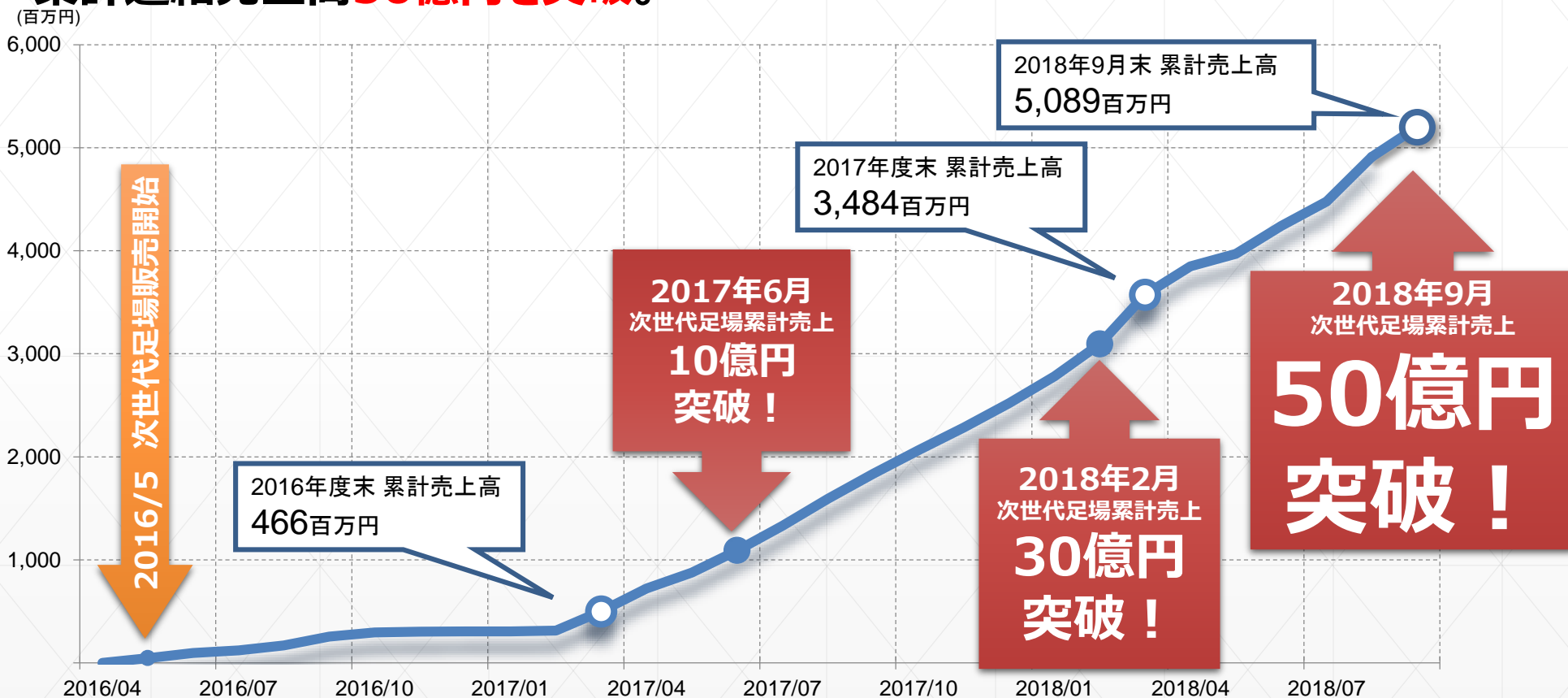
＜プラス要因＞

次世代足場が
首都圏を中心に全国へ拡大



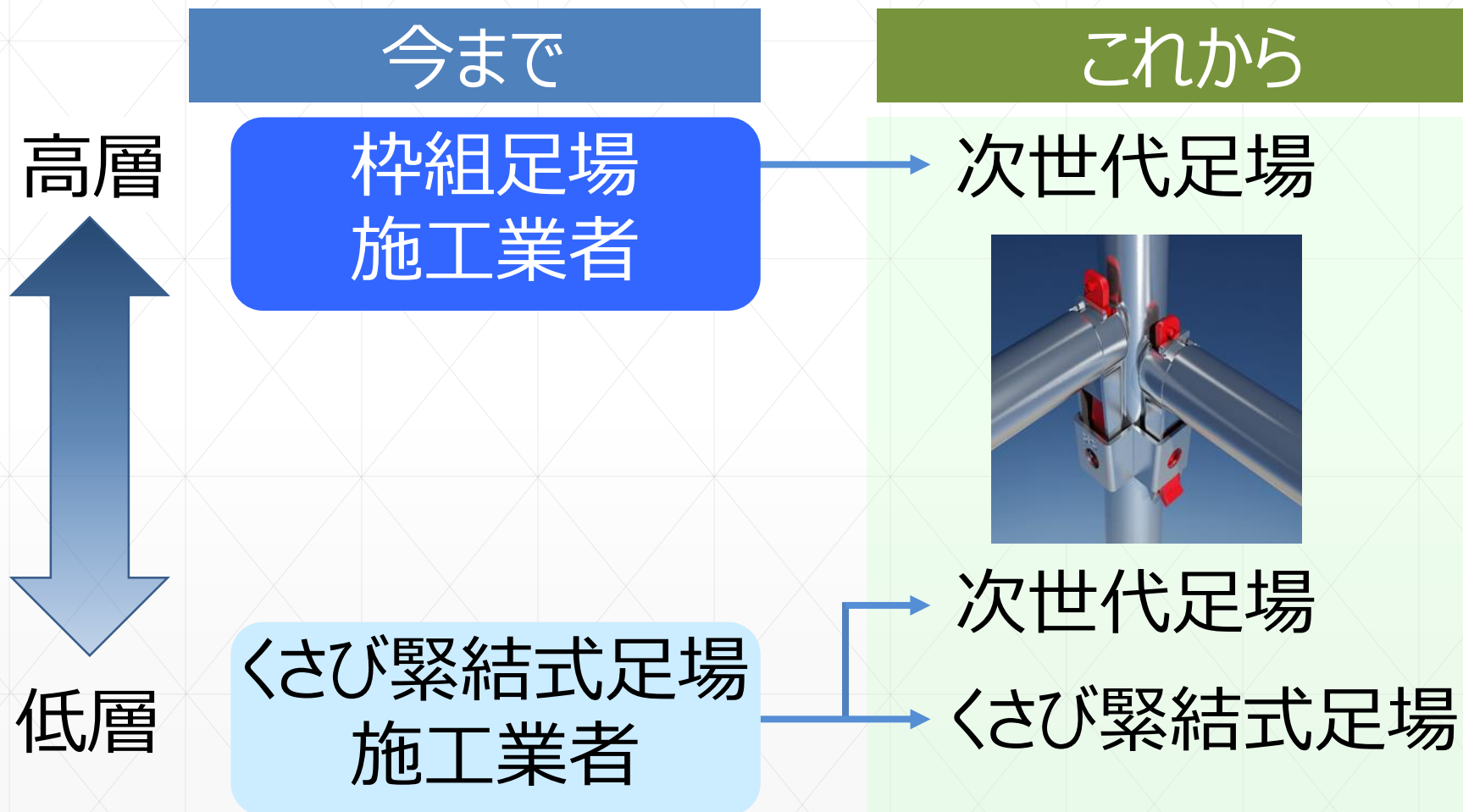
次世代足場 発売以降の累計売上

2018年9月で、次世代足場販売開始（2016年5月）から2年5カ月が経過。
製造現場における施工効率向上や安全措置の向上、騒音対策等のニーズ拡大に応え
累計連結売上高50億円を突破。





次世代足場の現状について





次世代足場が伸びる理由 ①

枠組足場から次世代足場への移行
《枠組足場》



枠組足場から
毎年移行

《次世代足場》



移行の背景

- ・現場の職人の高齢化・担い手不足
- ・安全基準の高まり
- ・施工効率UP

⑤ 次世代足場が伸びる理由 ②

公共工事など事業拡大を進める業者からの需要に応える

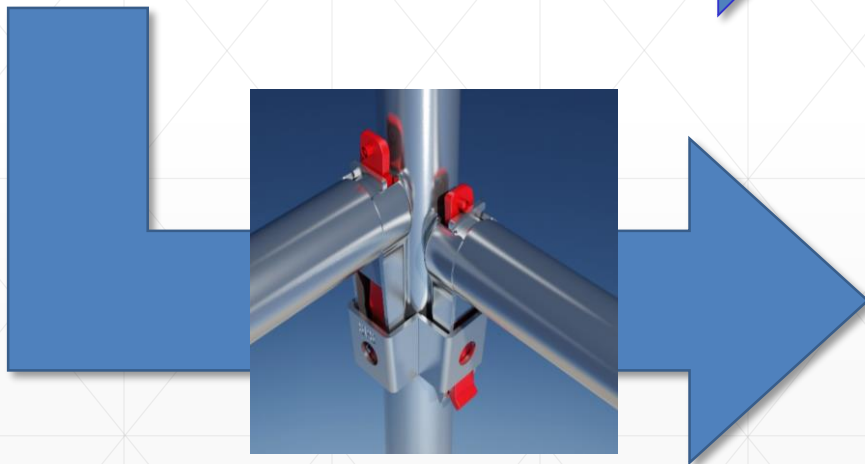
低層工事のみ
行っていた
足場の施工業者

くさび緊結式
足場

低層
(戸建住宅等)



大型施設
公共工事

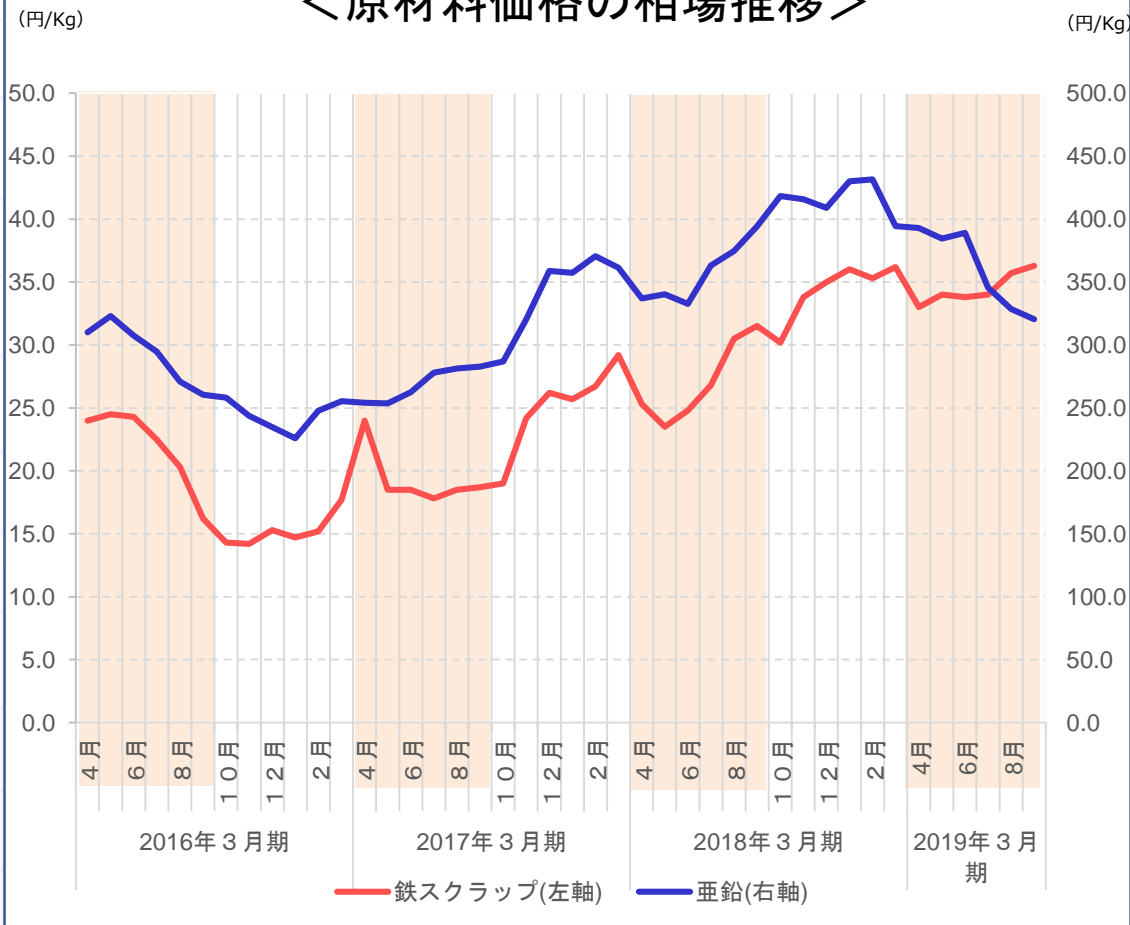


次世代足場



決算ハイライト：原料価格の状況

＜原材料価格の相場推移＞



原材料価格は、
高値が継続しているものの
会社計画に織り込み済み

| | 18/3期 2Q平均 | 19/3期 2Q平均 | 増減 (%) |
|---------------------|---------------|---------------|-----------|
| 鉄スクラップ ^o | 27.1 | 34.5 | +27.3 |
| 亜鉛 | 357.0 | 360.2 | +0.9 |

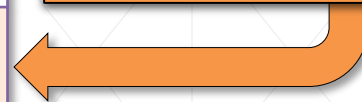
【資料】亜鉛相場：三井金属鉱業様ホームページ (www.mitsui-kinzoku.co.jp/aen/) より作成
鉄スクラップ相場：日本鉄リサイクル工業会ホームページより作成



連結損益計算書の概要

| (IFRS基準、百万円) | 18/03期 2Q累計 | 19/03期 2Q累計 | 増減 |
|------------------|----------------|----------------|------|
| 売上収益 | 8,062 | 8,624 | +561 |
| 売上原価 | 5,945 | 6,666 | +720 |
| 売上総利益 | 2,117 | 1,957 | △159 |
| 販管費及び 一般管理費など | 903 | 963 | +59 |
| 営業利益 | 1,214 | 1,004 | △210 |
| 税引前利益 | 1,180 | 974 | △206 |
| 当期利益 | 766 | 627 | △138 |

鉄鋼や亜鉛など
原材料価格
高騰



上場維持
費用

2019年3月期 業績見通し





2019年3月期 通期業績見通し

| (I F R S 基準、百万円) | 2018年 3月期 | 2019年 3月期 予想 | 増減 |
|-------------------|--------------|------------------------|-------|
| 売上収益 | 16,586 | 16,900 | +313 |
| 営業利益 | 2,306 | 2,370 | +63 |
| 税引前利益 | 2,238 | 2,313 | +74 |
| 当期利益 | 1,459 | 1,500 | +40 |
| EPS (円) | 105.87 | 108.79 | +2.92 |
| 1株当り年間 配当金 (円) | 43.00 | 44.00 | +1.00 |
| 配当性向 | 40.6% | 40.5% | |

次世代足場が
売上を牽引

原材料価格の
高騰が今後も
続くと想定

1円増配(予定)



機材センター 3カ所新規開設

顧客へのメリット

- 早い！ (リードタイム短縮)
- 近い！ (地の利)
- 欲しいものがある！ (在庫保有)
- 今取りに行きたい！ (緊急時対応)
- 物流コスト低減

当社のメリット

- 新規顧客・潜在顧客の獲得
- 既存顧客との取引の深耕
- 在庫を保有できる
- 横持ち時間の削減



更なる 業績拡大

株主還元 配当政策





配当政策

当社グループでは、株主の皆様に対する利益還元を経営上重要な課題の1つとして位置付けております

配当方針

**配当性向
40%以上
目標**

内部留保資金の使途





配当実績と見通し

2018年3月期

**2018年3月末の
株主様に対し
期末配当金**

1株につき **43円**

配当性向40.6%

2019年3月期予定

**年間配当金
1株につき
1円増配し**

44円

配当性向40.5%



ディスクレーマー

本資料に記載されている計画や見通し、戦略などは本資料作成時点において取得可能な情報に基づく将来の業績に関する見通しであり、これらにはリスクや不確実性が内在しております。かかるリスク及び不確実性により、実際の業績等はこれらの見通しや予想とは異なる結果となる可能性があります。

本資料に含まれる当社以外に関する情報は、公開情報等から引用したものであり、かかる情報の正確性、適切性等について当社は何らの検証も行っておらず、またこれを保証するものではありません。

ご不明な点がございましたら下記までお問い合わせくださいませ。

《お問い合わせ先》

信和株式会社：岐阜県海津市平田町仏師川30-7

部署：経営企画部

担当：丹羽・青木

TEL：0584-66-4436

e-mail：ir@shinwa-jp.com